

学部・地域連携を活用した実践的なPBL学習と その教育的効果に関する事例報告

Case Report about Educational Effect by Participation to the Shopping Area Activation Project as Regional Cooperation

浜野 純*・須栗 大**・山本麻衣***

Jun HAMANO, Masaru SUGURI, Mai YAMAMOTO

要約

昨今、大学や短期大学等の高等教育機関では、従来の講義形式の授業を行うだけでなく、アクティブラーニングなど多くの能動的学習を取り入れている。その中に『PBL学習』いわゆる「プロジェクト型学習」または「問題解決型学習」がある。本報告では、学部・地域連携を活用したPBL学習についての事例を報告する。目的は、新たな食の情報発信をする中で主体性を養うこととした。方法は、調査、目標の設定、実施内容の検討・決定、実施、評価の手順で行った。その結果、中京短期大学部健康栄養学科（以下、健康栄養学科）と経営学部の教育特性を生かし、多角的なアプローチを行うことができた。さらに中津川駅前商店街振興組合の客観的な評価を受けることで、より主体的なPBL学習に繋がったと考える。今後、PBL学習の教育的効果をより高めるためには、客観的な「評価指標」の作成や習得度を図る「評価法」の検討が必要である。

キーワード：

地域連携, 実践型PBL, 教育的効果, 大学生

Key words:

Regional cooperation, project based learning (PBL) for resolving actual problem, educational effect, university students

I. 緒言

昨今、大学や短期大学等の高等教育機関では、従来の講義形式の授業を行うだけでなく、アクティブラーニングなど能動的学習において、多くの手法が取り入れられている。その中で『PBL学習』いわゆる「プロジェクト型学習」または「問題解決型学習」がある。PBLとは、Project-based LearningまたはProblem-based Learningの略である。このPBL学習の定義は、「ある問題について理解あるいは解決をしようと努力する目的のプロジェクトに従事する過程で習得される学習」とされている¹⁾。本報告では、健康栄養学科の授業を通してPBL学習を活用し、経営学部および中津川駅前商店街振興組合（以下、振興組合）と行った地域連携活動の事例について報告する。

II. 目的

学部、地域連携を活用したPBL学習を取り入れ、新たな食の情報発信をする中で主体性を養うことを目的とした。

III. 方法

(1) 実施方法

食生活演習1回目の授業でPBL学習を展開するために、教員が昨年度までに実施した地域連携活動の事例を報告した。2回目以降は、食について現状を調査し、新たな情報発信をするための検討を行った。まず、平成26年度国民健康・栄養調査の結果から、野菜の摂取不足が問題点として挙げられた。そこで活動目標を「野菜摂取の啓発ために、地元野菜を活用した新しい野菜料理を販売す

* 本学専任講師, ** 本学教授, *** 本学助手

なるように工夫をした(図3)。



図2 商品パッケージ



図3 チラシ

⑥販売数の目標設定

販売数の目標を500食とした。

(3) 学部間および振興組合との会議

①第1回会議 2015年7月30日

事業目的の確認、役割分担を検討した。

②第2回会議 2015年11月11日

市場調査報告、ターゲット決定、商品を提案した。

③合同ゼミ会議 2015年11月18日

プロジェクト名、キャッチコピー、商品内容、新聞折り込みチラシ掲載内容を決定した。

④第3回会議 2015年12月21日

出店商品の試食、パッケージ及びチラシの内容、当日の各分担を確認した。

⑤報告会

十日市終了後、各学部で資料を作成し、決算報

告や実施内容、反省点について報告を行った。

(4) 十日市での出店

実際の販売数は、合計421杯であった(表2)。売り上げは126,300円で、必要な諸経費は合計89,333円(試作含む)となった(表3)。

表2 各時間の販売数

時間	販売数(杯)
9-10時	27
10-11時	48
11-12時	95
12-13時	57
13-14時	68
14-15時	106
15-16時	20
合計	421

表3 十日市出店の経費

品名	金額
検便検査	¥7,128
試作品	¥8,166
食材	¥40,521
スープカップ	¥8,767
スプーン	¥3,650
シール	¥6,296
広告	¥1,296
テーブルクロス	¥648
マフラー	¥7,645
駐車場	¥600
手袋・カセットボンベ	¥616
ガスボンベ	¥4,000
合計	¥81,167
合計(試作代を含む)	¥89,333

V. 実施の効果と今後の課題

全国的に商店街が衰退する中で、大学と地域との連携した取り組みは、新規客層の獲得に一定の効果을上げていることが、前例として報告されている²³⁾。今回の十日市への出店は、マーケティング及び地元野菜を活用した商品提案により、「まちづくり活性化事業」の役割の一端を担い、効果を上げたと考える。一方で、実践的PBL学習としては、健康栄養学科と経営学部の教育的特性を生かし、多角的なアプローチを行うことができた。これは、学生だけではなく、振興組合と協働して計画を進めたことで、本来は学生が地域にお

けるフィールド学習の意義を全て理解することは容易ではない¹⁾が、組合を含めた定期的な会議のたびに客観的評価を受けることで、実施目的が明確化し、主体的な学習に繋がったことによると考えられる。

今後、PBL学習を取り入れた地域連携を進めるには、学生達に事前学習を通じて、過去の事例や地域連携についての知識をより深く学習させることが必要である。また、学部及び地域間での情報共有を強化して、会議の議事録を確実に残す等、資料の共有化を進めたい。さらに、PBL学習の教育的効果を高めるために、客観的な「評価指標」の作成や習得度を図る「評価法」の検討が必要である。

【引用（参考）文献】

- 1) 西田明紀, 眞部真紀子, 岡部千鶴: “実践的PBL学習としての商店街賑わい創出について～産官学連携の可能性～”, 久留米信愛女学院短期大学研究紀要第39号, pp.77-84, 2016
- 2) 藤原ひとみ, 中山徹: “商店街活性化事業に関する研究－「いまこいバル」を事例として”, 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp.69-70, 2015
- 3) 豊田章起, 服部敦, 岡本肇: “豊川市中市街地区におけるすごろくを用いたまちづくりイベントの効果検証”, 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp.713-714, 2015